

Newsletter

NO.1

2025

はじめに

こんにちは。ジェンダー教育研究所・学生リーダーです。

私たちは、本学のジェンダー教育研究所とともに、ジェンダーの諸課題、特に多様性の尊重やジェンダー平等に寄与することを目指した活動を行っています。

今回はジェンダー教育研究所所長である手嶋昭子先生へのインタビューをさせていただきました。

ジェンダーや自身の学生生活について考える良い機会にもなると思いますので、ぜひインタビュー記事をご覧ください！

ジェンダー教育研究所所長・手嶋先生へインタビュー！

学生リーダー：

ジェンダー教育研究所学生リーダーです。

「発信！京女**Spirits**」企画の第一弾として、
本日は、京都女子大学法学部法学科の教授であり、
ジェンダー教育研究所所長である手嶋昭子先生にじっくり
お話を伺いたと思います。

手嶋先生：

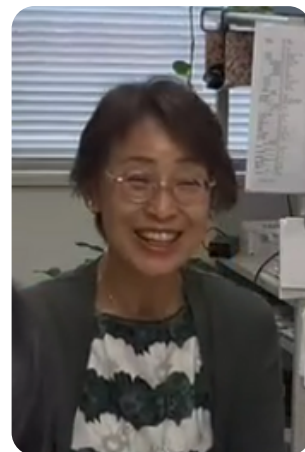
こんにちは。ジェンダー教育研究所所長の手嶋です。

学生リーダー：

手嶋先生、本日は貴重なお時間を頂き、
ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

手嶋先生：

よろしくお願いします。



手嶋先生

ジェンダー教育研究所所長への就任時の想い

学生リーダー：

それでは始めに研究所所長に就任されたときの想いをお聞かせいただけますか。

手嶋先生：

学長からご指名を頂いて所長をまかせていただくことになり、有難いことだと思いましたが、ただ、当初は、研究所の役割もまだ十分に理解できていませんでしたし、研究所の所長というポジションに着くのも初めてのことでしたので、不安もありました。

学生リーダー：

そうだったんですね。



手嶋先生：

ですが、学長が、本学のグランドビジョンに基づいてジェンダー教育研究所を開設された思いをお聞きすることにより、当研究所に求められている使命を理解することが出来ました。今は、研究所を拠点として、本学の教職員・学生が協働し、学外の皆様とも連携することで、ジェンダー平等の推進に寄与する多様な教育・研究活動を展開し、それをマネジメントしていくのが所長の仕事であると考えています。

学生リーダー：

ありがとうございます。まだ研究所が発足して間もないということですので、私たち学生もジェンダー教育研究所が更によりよいものになるよう努めていきたいと思います。

ジェンダー平等の社会とは

学生リーダー：

では次に、先生がお考えになる「ジェンダー平等の社会」とはどんな社会なのかお聞かせください。

手嶋先生：

私は「人が人をおとしめない社会」こそがジェンダー平等の社会であると考えています。属性が故に差別されるのは許されることではありません。たとえば、アメリカでは、人種差別に反対する運動とフェミニズムが相互にいろいろな意味で刺激を与えあって発展してきました。ジェンダーの視点というのは、単に性差の問題だけを扱うのではなく、全ての人がその人らしく生きることを促すものです。



学生リーダー：

なるほど。

手嶋先生：

たまに、ジェンダー平等のことを女尊男卑だと解釈する方がいらっしゃいますが、誰が誰の上に立つとかそういうことではなく、対等な関係でお互い尊重し合える社会こそがジェンダー平等が実現した社会だと思います。

学生リーダー：

ありがとうございます。確かにジェンダー平等が女尊男卑とイコールだという認識もあると思いますがそうではなくて、先生がおっしゃったように、ジェンダー平等というのは人が人を貶めない社会だという考えがきちんと広まった上で実現すると良いなと思いました。

手嶋先生：

そうですね。私もそんな社会が実現することを願っています。

京女生に学んでほしいこと

学生リーダー：

では最後の質問です。

京女生に大学の4年間で学んでほしいことは何ですか。



手嶋先生：

京女生に学んでほしいことはオープンに様々な考え方を吸収する姿勢です。周りの学生や先生と自分の考えが違うのは当たり前で、無理に人に合わせる必要もないけれど、良いと思う意見があれば素直に取り入れたらいいと思います。「人に流されてしまう」という学生さんもいらっしゃいますが、それはそれで悪いことでもない。確固とした自分の意見を持っている人は個性が際立っていて、魅力的かもしれません。しかし、一つの「正しさ」に凝り固まって、客観的に物事が捉えられない状態になっているなら心配です。私自身、学生時代、自分は優柔不断ではないかと悩んでいた時期がありましたが、今では、それもまた、多様な考え方を吸収して、バランスの取れた視点を学ぶための、成長のプロセスだったと思っています。

学生リーダー：

ありがとうございます。しっかりと自分をもつということを意識することも大切ですが、素直に受け入れることも大事なのだということがわかりました。少しでも多くのことを学び、充実した学生生活を送りたいと思います。



インタビュー日：2024年9月3日

インタビュー場所：京都女子大学

インタビュアー：2024年度ジェンダー教育研究所「未来を創るプロジェクト」

文学部3回生（当時） 井口萌 他

取材協力：発達教育学部 4回生（当時） 川北奈都